



きょうへい) 東大大学院工
系研究科修士課程修了、通
産省(現経産省)入省 地
所長、情報流通基盤総合研
究所長などを経て現職。

西田 享平氏(にしだ)
担当

コツコツと積み上げる



学界委員 温暖化対策を進めていくためには、環境規制の導入にたよらざるを得ないのか。あるいはボランティアな行動計画にねるべきなのか。これは、古く新しい問題である。発表者の家の断熱基準について規制するということは自分の住み方が他人に迷惑を与えないという意味

で、私は規制という形をとつてよいと思っている。規制というと押しつけみたいでよくないので、規制では

ないかと思っている。

発表者の私の独断と偏見で言つて、省エネを進める。規制といふ考え方がある。

1つは規制。これが一番強力だ。住宅の省エネ法が全然守らないのは、規制

ないかであつて、ま

さに規律でやつてほしい

といひだ。

2つ目は、トップ

の決断。3つ目は、

消費者の「心の琴線

に触れる」ことによ

り、消費者を動かす

考え方。

学界委員「規制

なくしてビジネスな

し」との考え方があ

る。産業界に元気が

出で、新しい技術開

拓といふ考え方がある。

発表者 産業用について

も、日本におけるヒートボ

ン技術としては非これか

ながら進めていくことが大事である。

発表者 日本の場合、中

小委員 ヒートポンプ

技術は国際的にみて、日本

はどういう位置にあるの

か。

発表者 私の場合は、中

小委員 ヒートポンプ

をして、ある程度共通性の

あるところは開発ターゲッ

トを定め、国として支援し

て、規制をしたとして

ある。ただ規制をしたとして

だけの時間がかかり、そ

の効果はどうのくらで出てく

るのか、難しい面がある。

金銭感覚でない行動のイ

ンセンティブがあつてよい

のではないか。それは環境

倫理のようなものが望ま

い。

「ある程度の規律が必要」



社会の人たちに迷惑を与えるので、守つてほしいといふことになる。本人の自覚が望ましい。

産業界委員 規制という意味で言つて、われわれがおもい願いは規制とコストを比較できるような形で、コストを見えたうえでの議論を是非していただきたい。

産業界委員 電気製品の大型化傾向に対応できない。テレビも冷蔵庫もどんどん大型化傾向に

を守つてることになる。日本の民生エネルギー需要はすでに飽和化が進んでいく。

産業界委員 物産大手社員が、マーケットメカニズムによる規制をしたとして問題に帰結する。建物の断熱性が、需要に応じて、ガスもや低下傾向にある。日本の家庭用エネルギーは、今の水準でほかと比べて横ばいはない。

産業界委員 本日はメーティングにしましたが、マーケットメカニズムによる規制をしたとして問題に取り組みを進めて、同時に省エネについても、それが普及するのだとだけの時間がかかり、それが普及するのだと問題の根幹は、需要に

一回は、エネルギー消費は、非常に強い。また機器単体だけでなく、次世代ヒートポンプシステムとして総合技術としては非これか

規制によって生活者国

の省エネが進んでいくと、需要が落ちてくる。日本でも義務化されると消費電力が落ちてくるとみて

いる。発表者 家電製品では照明だけは伸びて、ほかと比べて横ばいはない。

発表者 企業では大型化傾向にある。エネルギー消費は、低下傾向にある。今後、未利用エネルギーが伸びて、ガスもや低下傾向にある。日本の家庭用エネルギーは、今の水準でほかと比べて横ばいはない。

発表者 物産大手社員が、マーケットメカニズムによる規制をしたとして問題に取り組みを進めて、同時に省エネについても、それが普及するのだとだけの時間がかかり、それが普及するのだと問題の根幹は、需要に

一回は、エネルギー消費は、非常に強い。また機器単体だけでなく、次世代ヒートポンプシステムとして総合技術としては非これか

規制によって生活者国

の省エネが進んでいくと、需要が落ちてくる。日本でも義務化されると消費電力が落ちてくるとみて

いる。

発表者 結局は倫理的な問題に帰結する。建物の断熱性が、需要に応じて、ガスもや低下傾向にある。日本の家庭用エネルギーは、今の水準でほかと比べて横ばいはない。

発表者 周辺は、再生可能エネルギー力をやめ、再生可能エネルギーを増やしていく方

になる。

発表者 結局は倫理的な問題に帰結する。建物の断熱性が、需要に応じて、ガスもや低下傾向にある。日本の家庭用エネルギーは、今の水準でほかと比べて横ばいはない。

発表者 周辺は、再生可能